



SanRex

株式会社三社電機製作所 会社説明会

(東証スタンダード 証券コード 6882)

2023年12月23日

代表取締役社長 **吉村 元**



本日の内容

01

当社の紹介

02

事業の紹介

03

中長期の成長戦略

04

2024年3月期 通期業績予想と株主還元

05

まとめ

01 当社の紹介

会社概要



会社名	株式会社三社電機製作所
本社所在地	大阪市東淀川区西淡路3-1-56
資本金	27億7,427万7,500円
事業内容	半導体と電源機器の開発・製造・販売
売上高(連結)	28,088百万円(2023年3月期)
営業利益(連結)	1,629百万円(2023年3月期)
従業員数(連結)	1,436名(2023年9月末現在)
連結子会社	国内3社 海外6社
株主数	7,458名(2023年9月末現在)
上場市場	東証スタンダード市場(コード:6882)

1933年（昭和8年）映写機用電源の製造販売を開始

- ・映画ブームが追い風となり、多くの映画館に納入

社名の由来

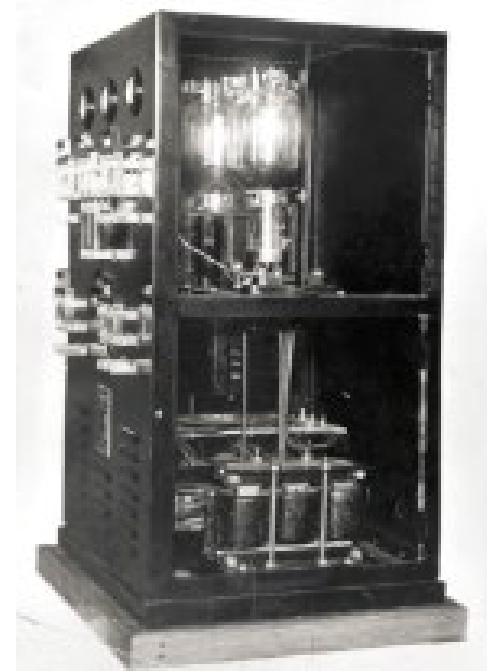
人すなわち「事業」を運営する人と、「技術」をもって参画した人と、

「資本」を出した人と、まさに**三**人の**社**会人で創業したこと、
そして、世界で三本の指に数えられる会社にしようという意味

ブランド

Sanshaの「San」 + 整流器 **Rectifier**の「Rex」

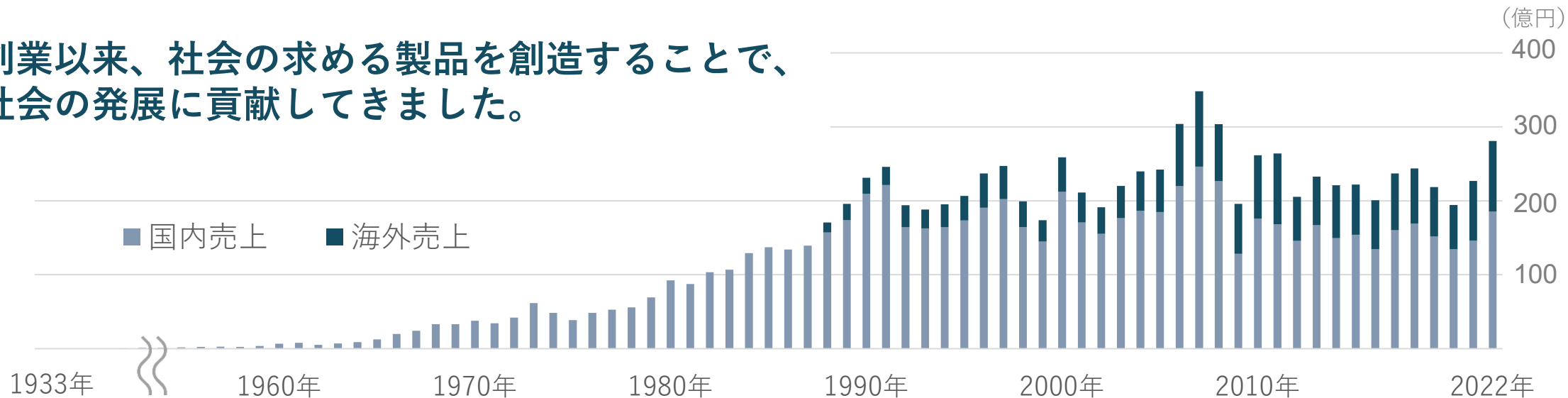
- ・Rexには王様という意味もあり「整流器の王様」を表す



創業時の映写機用電源

沿革

創業以来、社会の求める製品を創造することで、
社会の発展に貢献してきました。



創業から現在に続く 技術基礎の確立

- 1933 映写機用電源開発
- 1960 本社工場竣工
- 1963 パワー半導体開発
- 1970 めっき用整流器開発

拠点拡大、パワー半導体 の開発特化

- 1982 無停電電源装置開発
- 1982 滋賀工場竣工
- 1985 岡山工場竣工
- 1988 パワーMOSFETモジュール開発

さらなるグローバル化 へ体制整備

- 1993 太陽光パワーコンディショナー開発
- 1994 三社電機(広東)有限公司設立
- 1997 大阪証券取引所市場第二部(東証スタンダード)へ上場
- 2002 デジタルシネマプロジェクト用電源開発

新たな時代に向かって

- 2015 SiCパワーモジュールをパナソニックと共同開発
- 2016 バーチャルパワープラント構築実証事業参画
- 2017 燃料電池対応パワーコンディショナー開発
- 2020 蓄電池評価用電源開発

国内事業拠点



営業拠点 7拠点



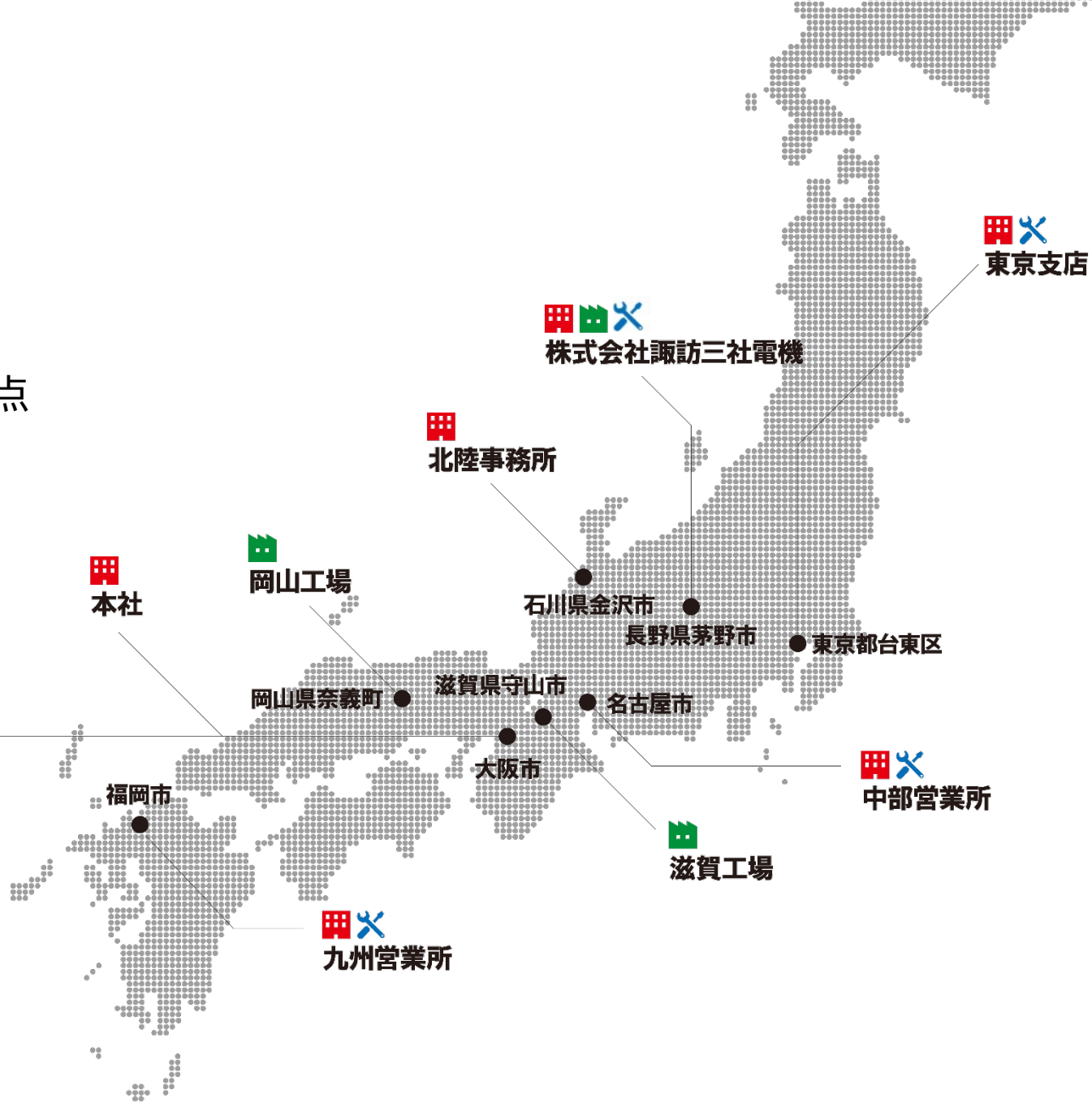
サービス拠点 5拠点



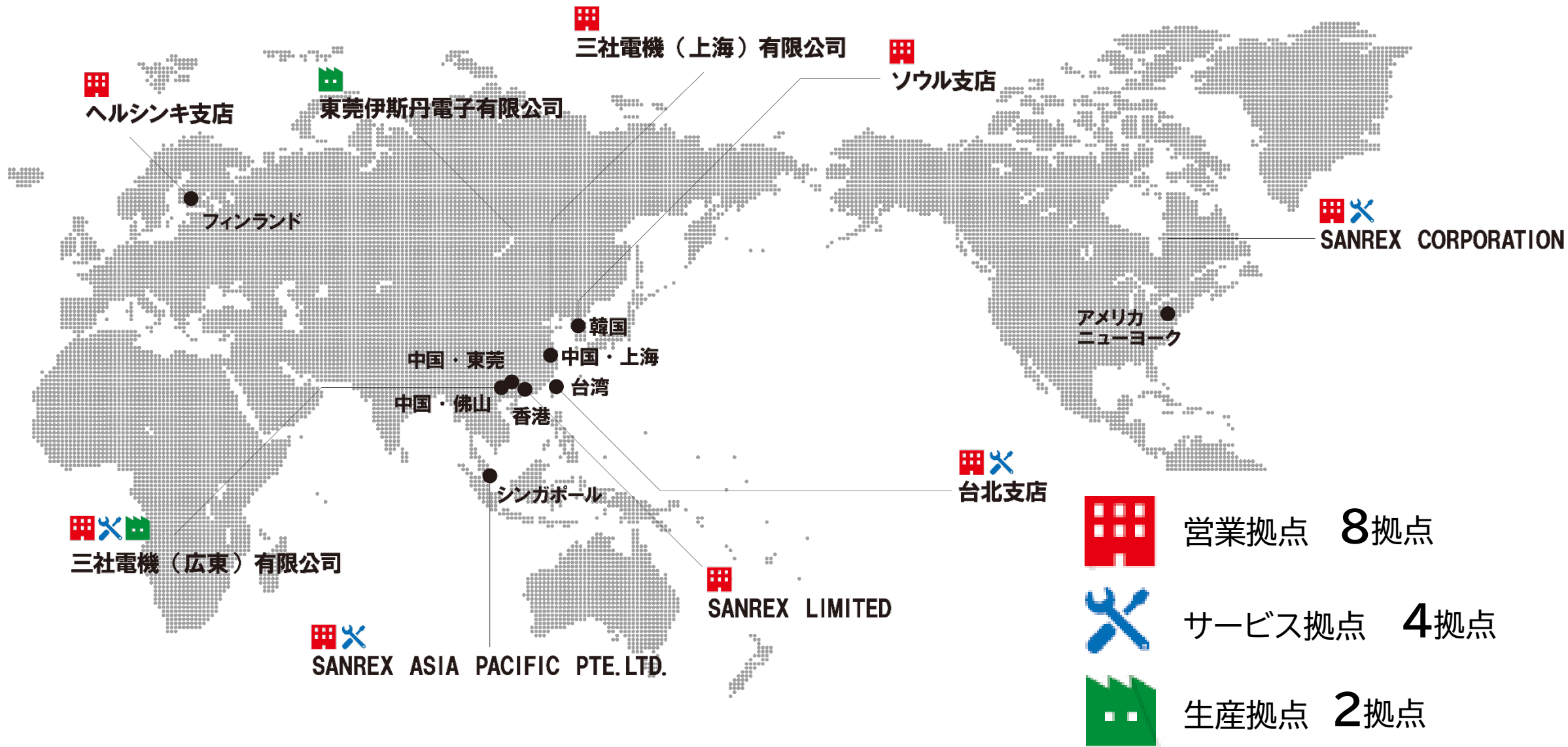
生産拠点 4拠点

株式会社三社ソリューションサービス

大阪電装工業株式会社

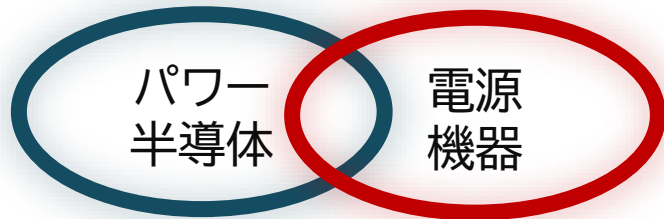


海外事業拠点



01

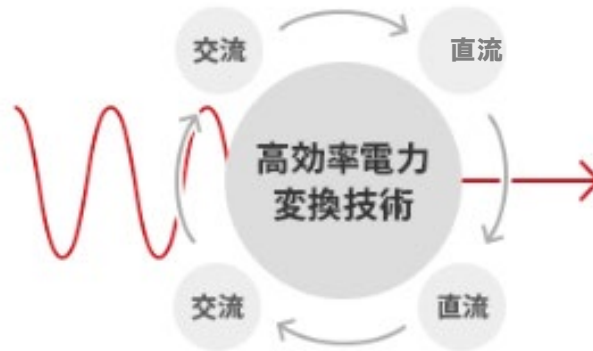
パワー半導体と電源機器の融合



両方を自社開発・生産を行うことによって、双方の性能を最大限に引き出せる

02

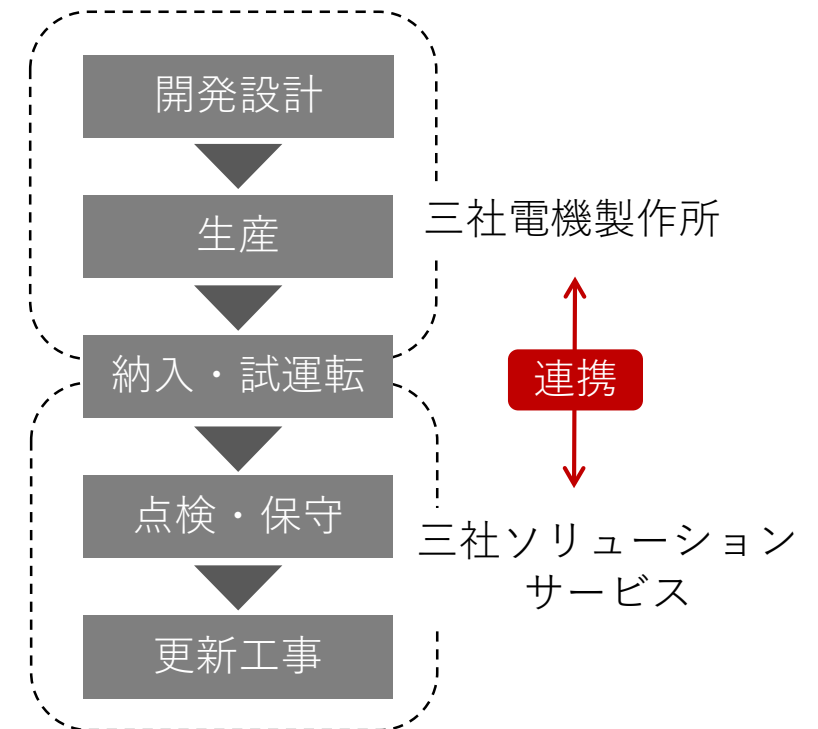
高効率電力変換技術



- ① 直流を交流に変換する
- ② 交流を直流に変換する
- ③ 交流の周期を変える
- ④ 直流や交流の電圧を変換する

03

一貫生産とアフターケアまでのワンストップサービス





02 事業の紹介

半導体事業の概要

集積回路半導体ではなく、大電流・電圧の制御など電源装置に使用されるパワー半導体

構成比

(2023年3月末)

81億円
(31%)



5億円
(37%)



セグメント

パワーモジュール

主な用途：
産業用機械や業務用設備

ディスクリート

主な用途：白物家電

チップ

電気的特性を持った
シリコン基板の小片

強み・特長

- 01 高耐圧、大電流かつ電力損失を低く抑えたパワー半導体を自社開発
- 02 高信頼性を実現するパッケージ技術
- 03 電源機器事業とのシナジー

サイリスタ・ダイオード
モジュール市場で
世界シェア**第3位**※

※ OMDIA 「Annual Power Semiconductor Reports」

社会を支える三社電機グループのパワー半導体

サイリスタ/ ダイオード  製造用ロボット	ダイオード  業務用エアコン	ダイオード  太陽光発電
サイリスタ/ ダイオード  溶接機	ダイオード  電鉄用補助電源	トライアック  白物家電

- サイリスタ：
電流を制御することができる素子
- ダイオード：
電気を一方向にしか流れないようにする素子
- トライアック：
双方向の電流を1つのゲート電極で制御することができる素子



モジュール

複数個の半導体を組み合わせて、
1パッケージにまとめた製品



ディスクリート

1つの素子で1つの機能を持つ半導体

電源機器事業の概要

環境・エネルギー分野、インフラ・設備分野などを支える多種多様な産業用の電源機器

構成比

(2023年3月末)

199億円
(69%)

売上高

11億円
(63%)

営業利益

主なセグメント

一般産業用電源

産業用の大容量電源

表面処理用電源

金属などの表面のめっき加工等で使用

インバーター

可変電圧・可変周波数の交流電流に変換する装置

小型組込電源

医療機器、通信機器などに組込まれる小容量電源

強み・特長

- 01 電力損失を抑えながら電力を高速・高精度に変換する技術
- 02 小型電源から産業用の大型電源まで幅広く開発
- 03 アフターケアまでのワンストップサービスを提供

表面処理用電源で
国内シェア**第1位**※

※：(一社)日本表面処理機材工業会
「2021年電源販売動態統計」を基に当社推定

社会を支える三社電機グループの電源機器

蓄電池評価用電源



蓄電池

銅箔生成用電源



リチウムイオン
電池

オゾン殺菌用電源



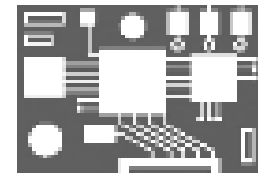
上水・下水道

プラズマ灰溶融
電源



ゴミ処理場

表面処理用電源



電子部品/自動車

溶接機用電源



ロボット/船舶



産業用大容量電源



表面処理用電源



溶接機用電源

社会を支える三社電機グループの電源機器

燃料電池・蓄電池
パワーコンディショナー



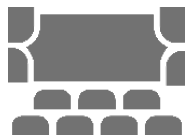
新エネルギー

無停電電源装置



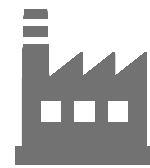
ETC/生産設備

光源用・調光用
電源



映画館/スタジオ

電力調整器



各種炉

小型組込電源



ATM

小型組込電源



医療機器



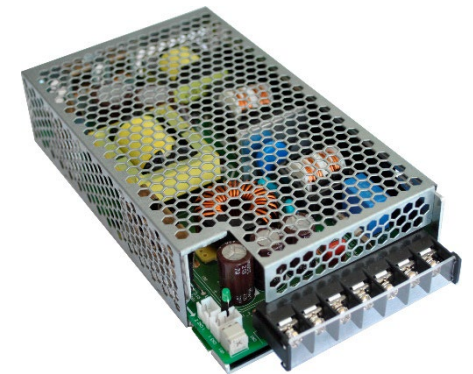
燃料電池用パワーコンディショナー



無停電電源装置



光源用電源



小型組込電源

A photograph of four small green seedlings growing out of dark, rich soil. The seedlings are at different stages of growth, with the tallest one on the right having two leaves. The background is a soft, out-of-focus bokeh of green and yellow light spots. A semi-transparent dark horizontal band is overlaid across the middle of the image, containing the title text.

03 中長期の成長戦略

パワーエレクトロニクスと創造力で、社会を前進させる。

創業以来、私たちは「電気の変換と制御」に向き合ってきました。
これは、これからも変わることはありません。
オンリーワンの技術やサービスにこだわり、
社会を「明るい未来」へ前進させる存在であり続けること。
それが私たちの存在意義であり、志です。

言葉に込めた、私たちの想い

■「パワーエレクトロニクス」

私たちの変わることがない社会の役割、事業領域。
私たちは常にパワーエレクトロニクスと向き合っていきます。

■「創造力」

私たちは技術の会社ですが、技術者だけでなく、
全ての社員がパーパスを基に活動していきます。
全ての社員が創造性を意識して、オンリーワンにこだわって活動していきます。

■「社会を前進させる」

電源機器とパワー半導体のメーカーとして、社会がより良い方向に進んでいく
源であり、力になっていくこと。私たちが存在している意義であり、志です。

私たちのパーパスを動画にまとめましたので、
ぜひご視聴ください。
(2分57秒)



Global Power Solution Partner

顧客の声を聴き、ソリューションの期待に応えるパートナーであり続けること

目指す姿の4つのテーマ

Technology

パワーエレクトロニクス関連技術は
世界トップレベルまで磨かれている

Solution

パワエレ関連技術を武器にお客様の困りごと
を徹底的に掘り起こし解決している

Global

目線はグローバル。
全地球規模で事業を展開している

Trust

誠実さと品質に対し抜群の信頼感を
社会から得ている

中期経営計画 CG23 (2022年3月期～2024年3月期) の概要

基本方針

- 持続的な成長に向けた変革
- 社会課題解決に貢献

スローガン

Change to Growth



01

脱炭素社会、環境保護に貢献



02

インフラ整備と産業発展に貢献



03

安心・安全の提供とサービス向上



04

モノづくりの強化



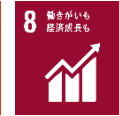
05

生産活動における環境負荷軽減



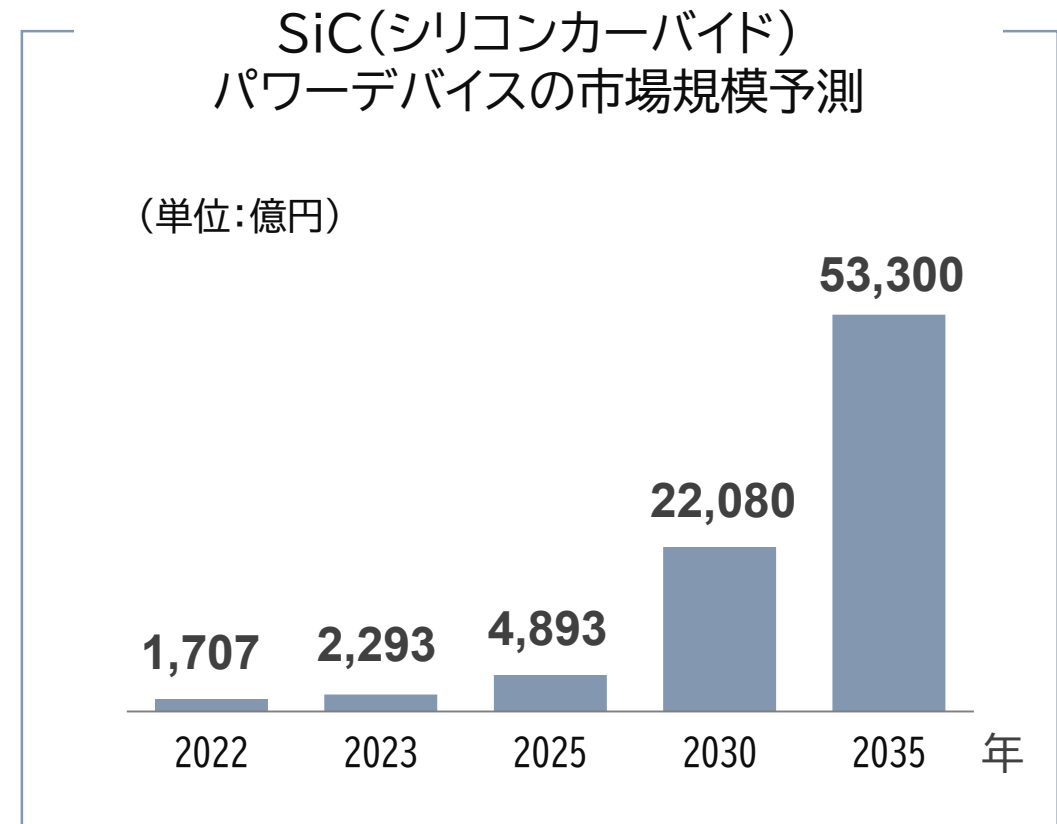
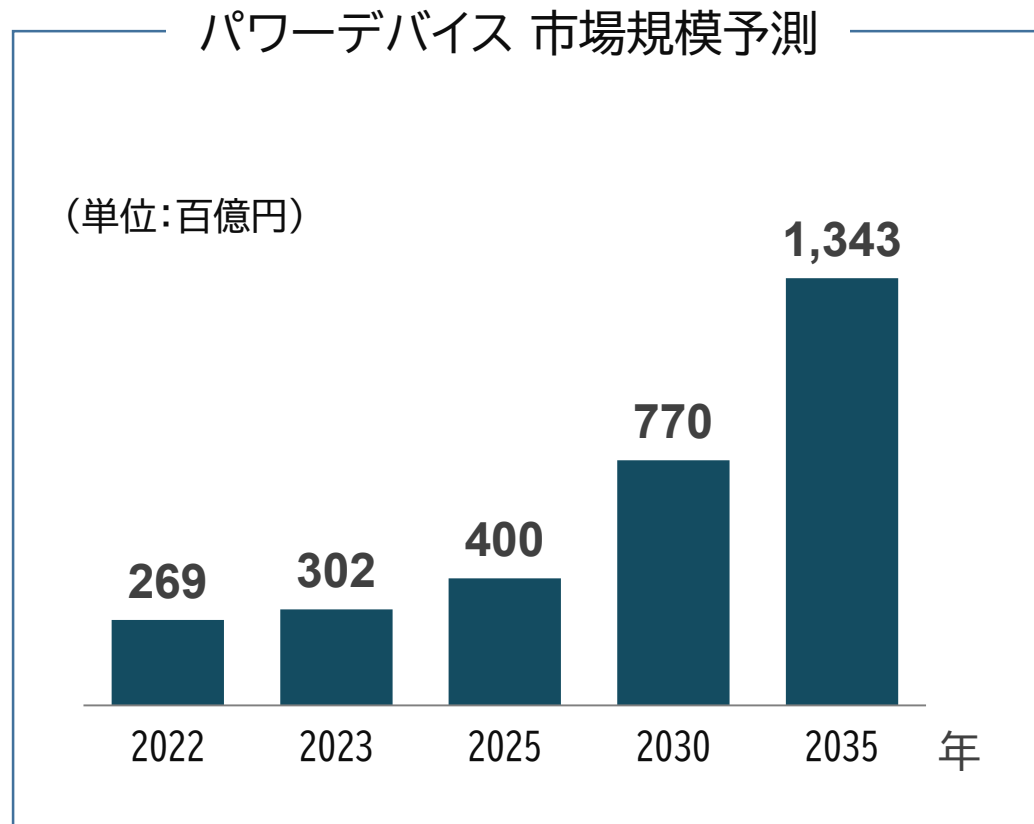
06

ダイバーシティ推進と人材活躍



市場動向（パワー半導体）

サーバー電源などの情報通信機器分野や太陽光発電などのエネルギー分野での需要増加に加え、
自動車や充電インフラなどの普及による自動車・電装分野など電力の効率化を目的に需要が拡大



出典：富士経済「2022年、2023年版 次世代パワーデバイス & パワエレ関連機器市場の現状と将来展望」

製販技で高収益化を追求



技術

- SiC（シリコンカーバイド）半導体のラインナップを拡充
- 低リーク電流・低損失、低環境負荷をコンセプトとしたラインナップを拡充



SiC MOSFET モジュール

生産

- 部材の標準化、設計の効率化
- 自動化設備の導入

販売

- SiC半導体の顧客開拓
- 新製品の市場浸透のスピードアップ

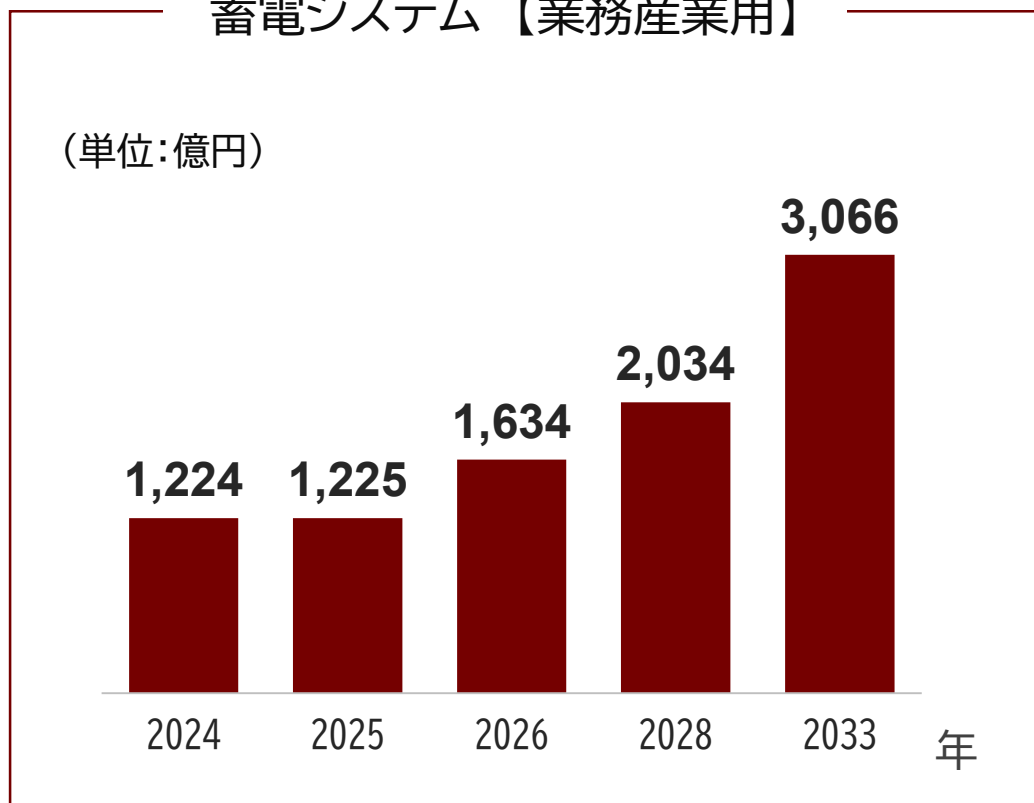
2024年3月期 設備投資計画

設備投資概要	目的	金額
ウエハ大口径化	ウエハ工程合理化・増産	2.4億円
増産ライン	モデルチェンジ品増産・自動化	5.3億円
太陽光発電	合理化・環境対策	1.5億円
合計		10億円

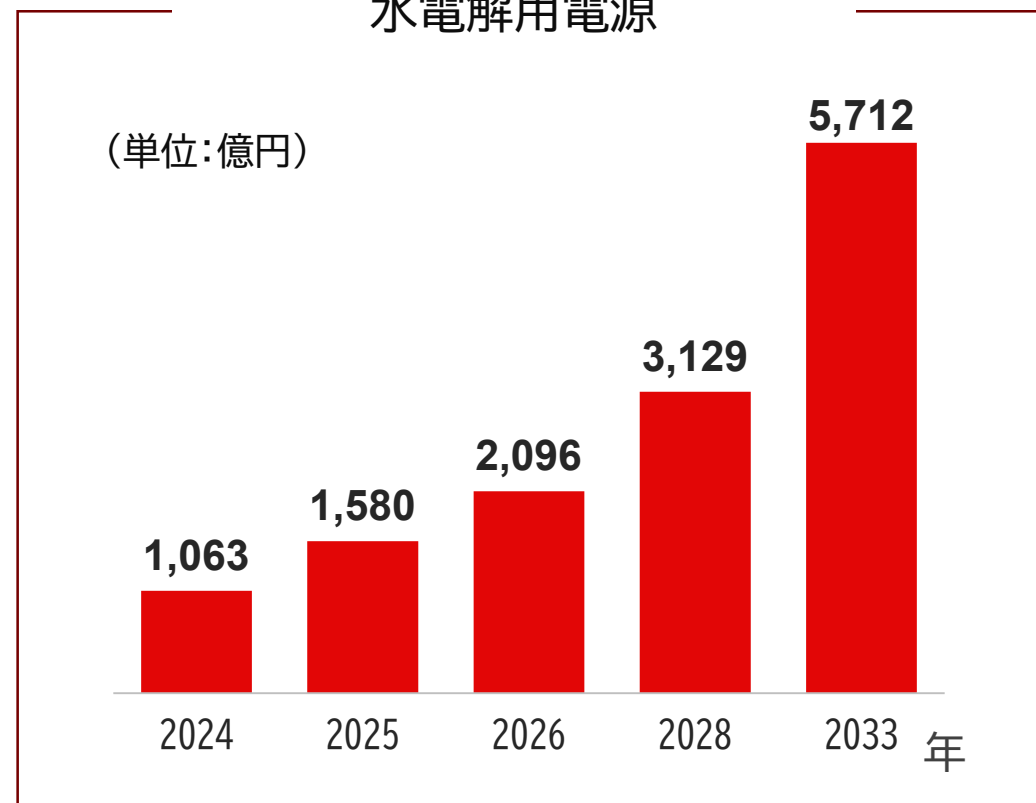
市場動向（電源機器）

再生可能エネルギーの導入が加速するなか、蓄電システムの需要が拡大。
2050年カーボンニュートラル達成など、脱炭素燃料である水素エネルギーの活用が進む。

蓄電システム【業務産業用】



水電解用電源



出典：エネルギー・大型二次電池・材料の将来展望より試算/富士経済(2022)

出典：水素基本戦略の個別論点と水素産業戦略について/経済産業省(2023)
Manufacturing Cost Analysis for PEM Water Electrolyzers/NREL(2019)

付加価値を訴求し、高収益化へ



技術

- 水素・新エネルギー、環境分野の拡大
- 基盤事業の強化（新製品開発）
- 他社・他機関とのコラボレーション推進

生産

- 設計の標準化
- 自動化設備の導入

販売

- 単体販売からシステム提案へ
- 高付加価値標準製品の拡販

2024年3月期 設備投資計画

設備投資概要	目的	金額
工程合理化設備	合理化・増産対応	3.1億円
品証・検査関連設備	品質向上、法定対応	1.6億円
合計		4.7億円

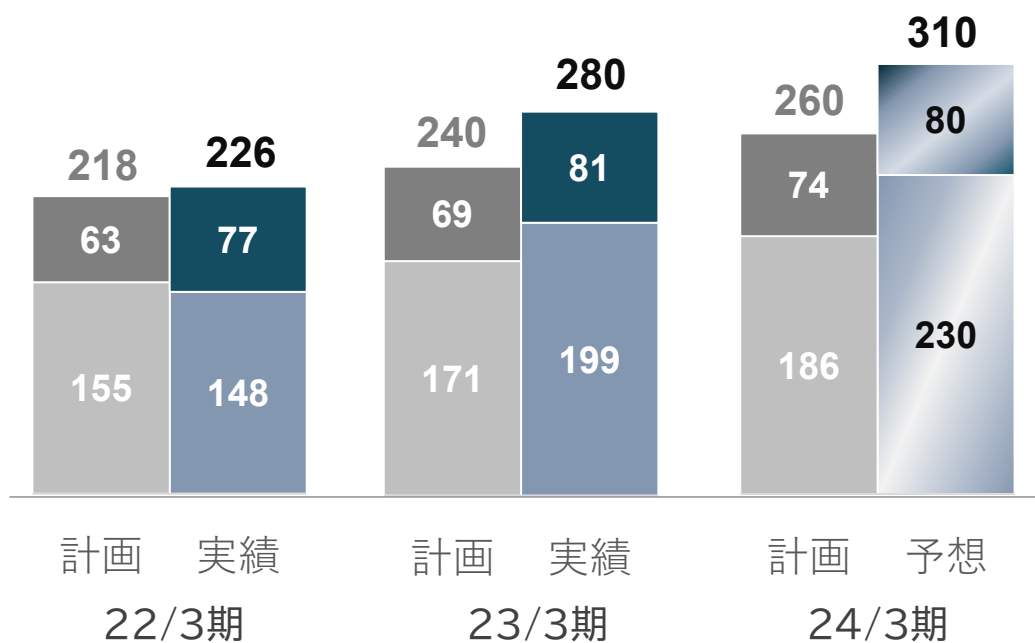
中期経営計画 CG23_これまでの進捗

製造業の堅調な設備投資、半導体・電子部品の需要拡大により、売上高、営業利益、ROEは、3期とも計画を超える見通し

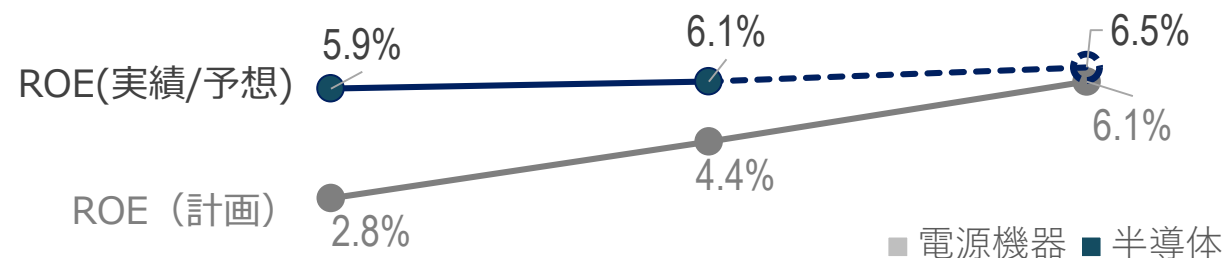
売上高

(単位：億円)

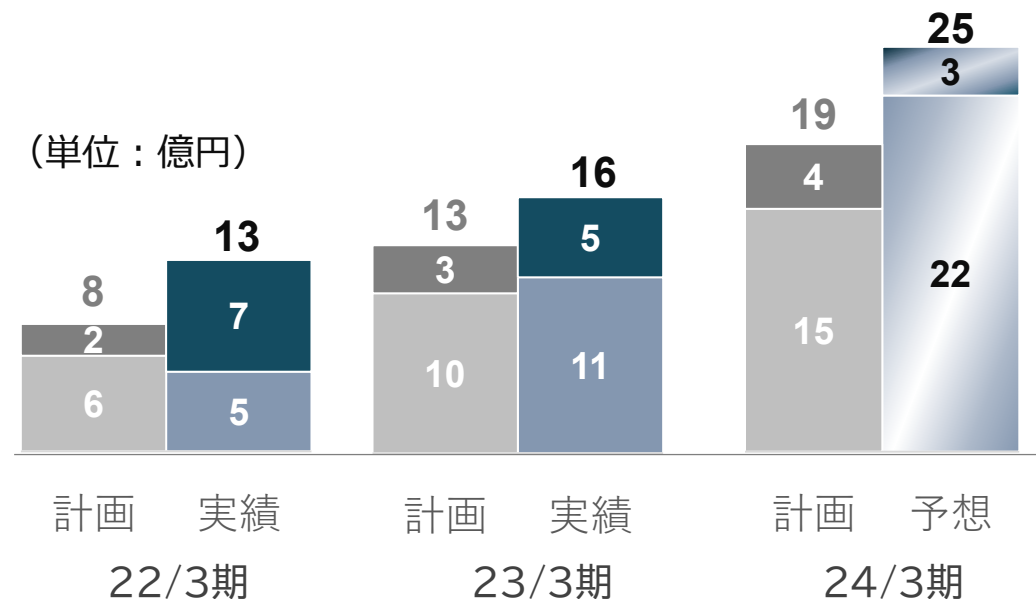
■ 電源機器 ■ 半導体



営業利益/ROE

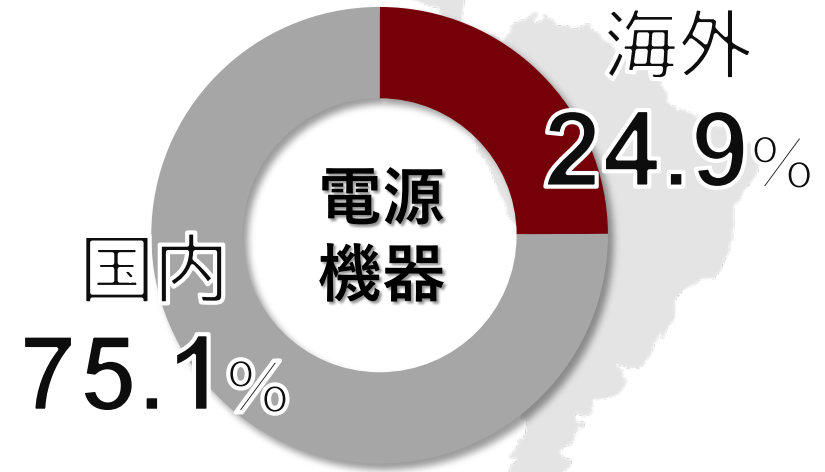
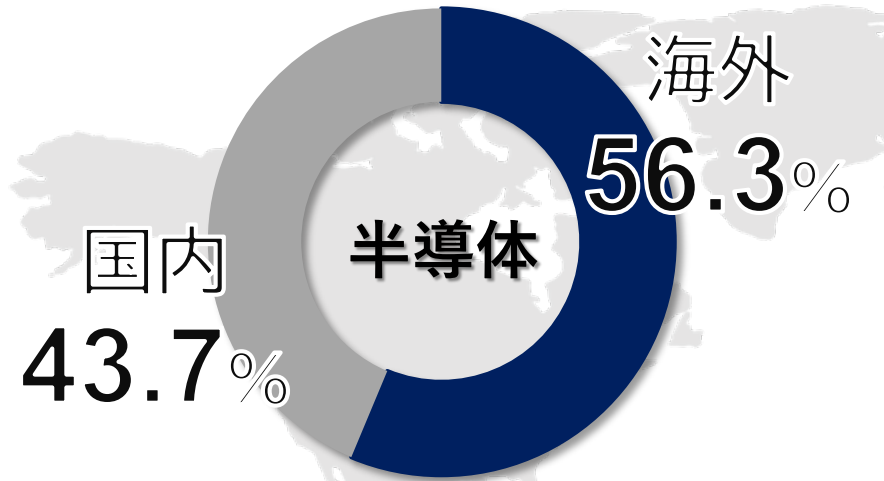
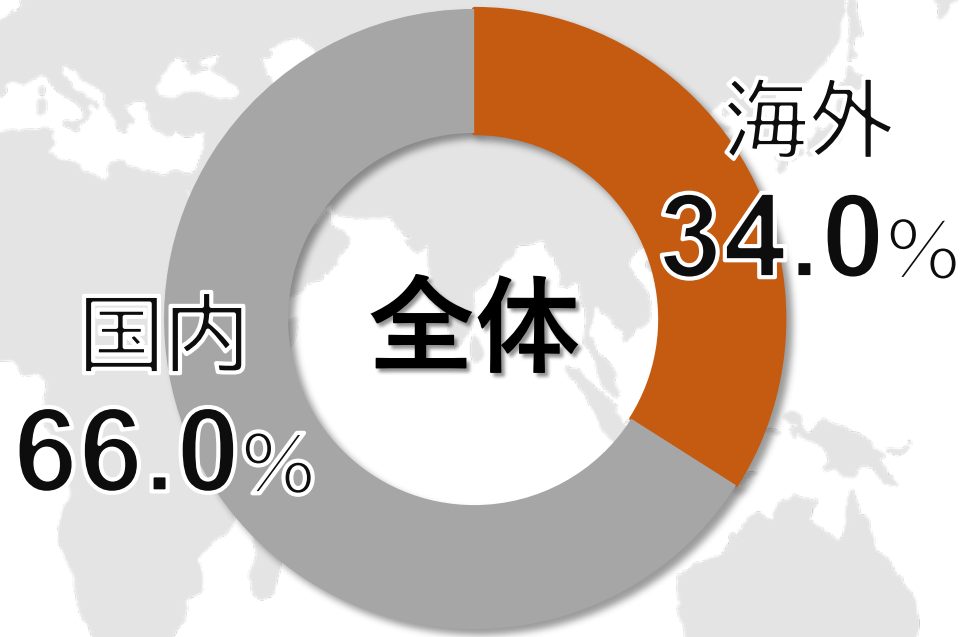


(単位：億円)



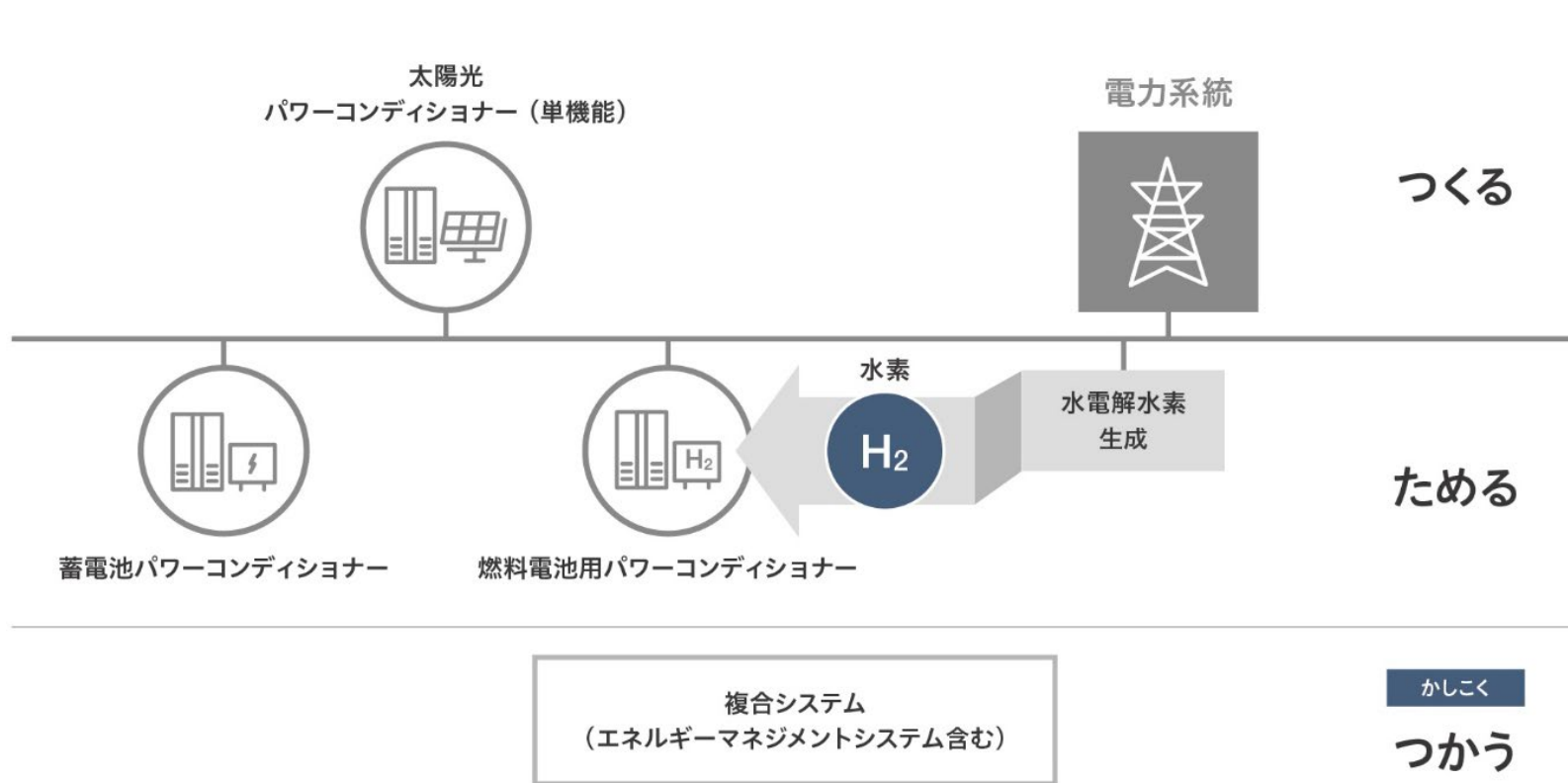
海外売上高比率（2023年3月期）

中長期的には、50%程度に引き上げることを目標にグローバル展開を推進します。



「脱炭素社会の実現」への取り組み

パワーエレクトロニクス技術を駆使したエネルギーソリューション



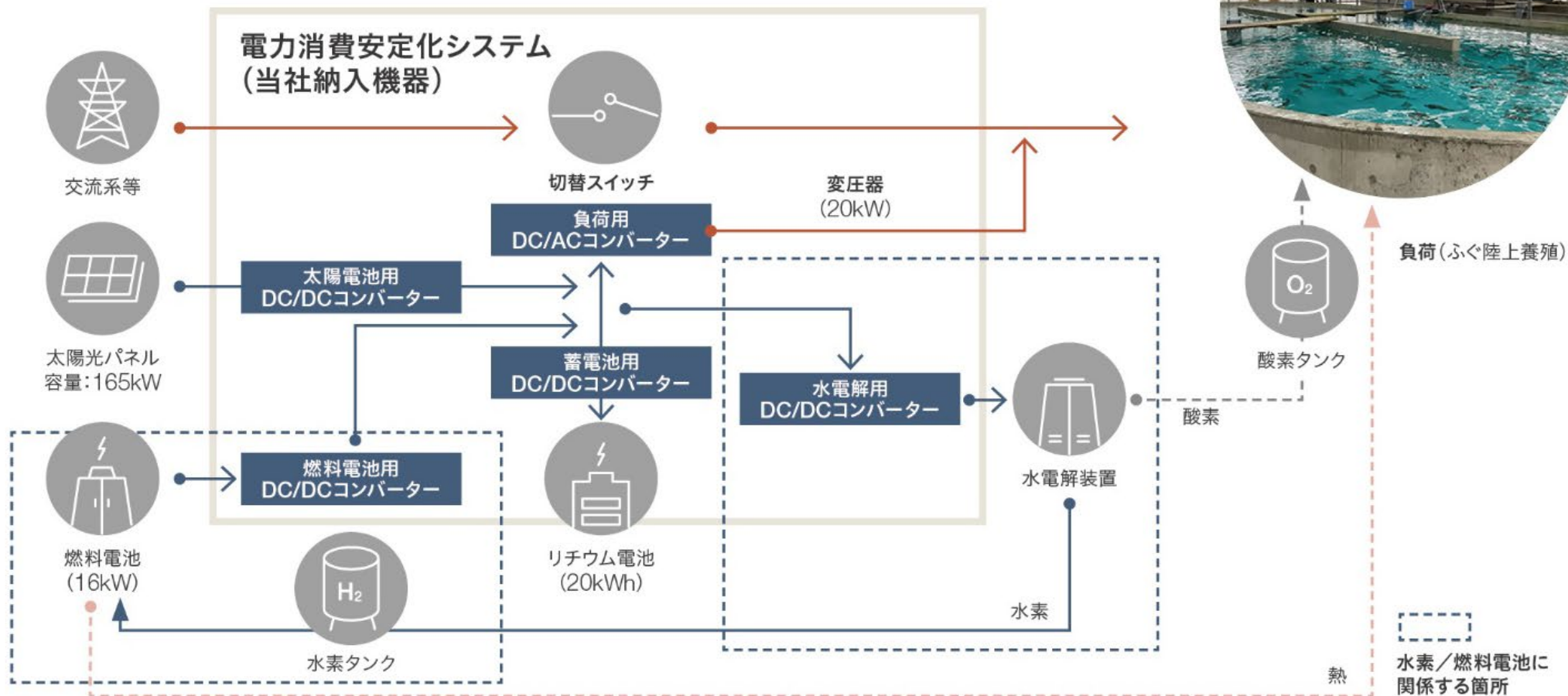
▶ 太陽光発電、水素生成、蓄電池から発電された電気（直流電力）をいえるように（交流電力）にするためのパワーコンディショナーを開発

▶ 使いきれない電気をためたり、足りない電気を補うためには蓄電システムを開発

▶ 大電流、高電圧の用途での省エネルギー化に貢献するSiC（シリコンカーバイド）半導体を開発

「脱炭素社会の実現」への取り組み事例

蓄電池・燃料電池・水電解装置複合システムの開発
納入先：長崎県壱岐市

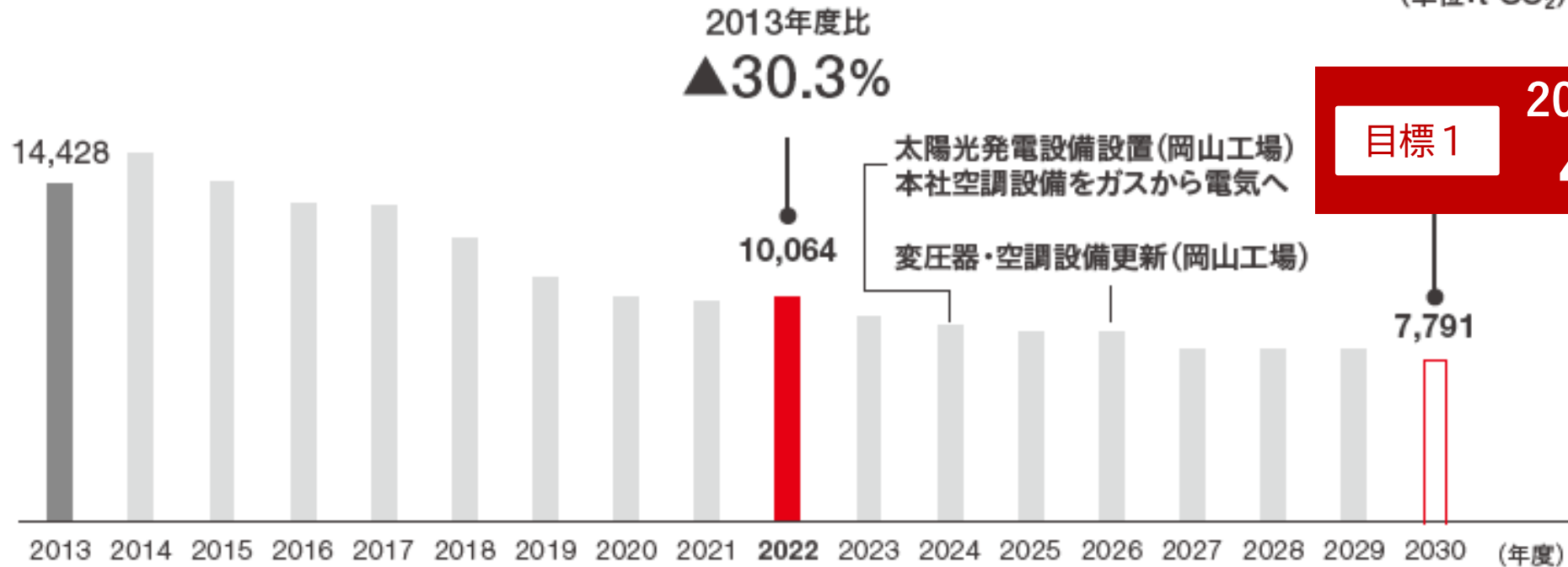


サステナビリティの取り組み ～CO₂排出量の削減～

「減らす」「置き換える」「創る」を方針に掲げ、
グループ全社で2030年までにCO₂排出量を46%削減する

CO₂排出量削減の実績と目標(SCOPE1.2)

(単位:t-CO₂)



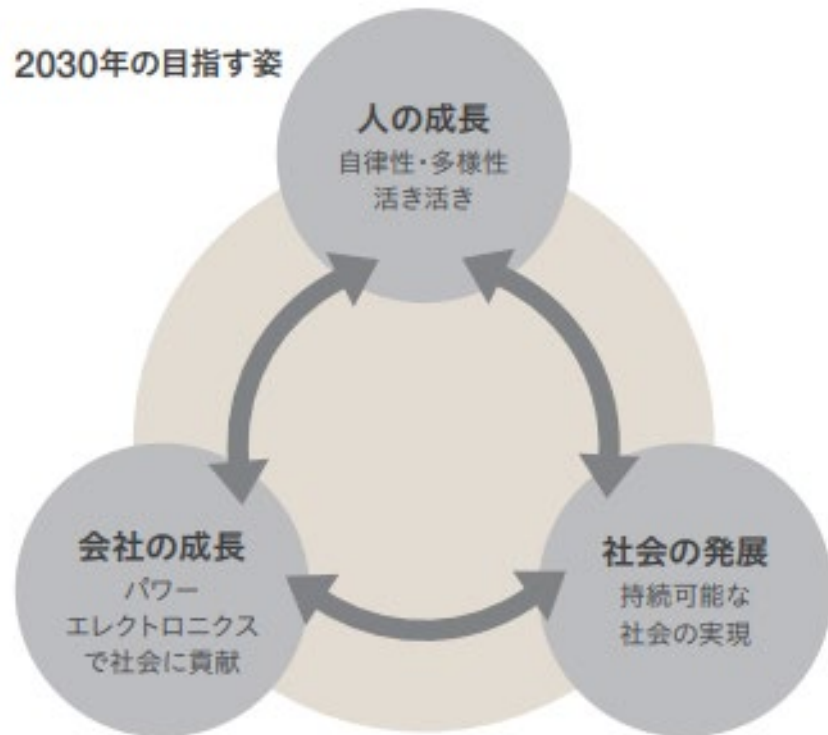
目標2

2050年にはカーボンニュートラルとする

サステナビリティの取り組み ～CO2排出量の削減～



当社のエネルギー消費量の約8割を占める岡山工場が
2013年度から着手した脱化石燃料化に向けた取り組みで、
2023年度省エネ大賞（省エネルギーセンター会長賞）
を受賞しました。



01 人材の育成

- ① 次世代幹部・リーダー育成
- ② 技術職能育成プログラムの再構築
- ③ グローバルリーダーを輩出する人財基盤を構築

02 ダイバーシティの推進

- ① 女性活躍推進
- ② 中途採用を積極的に推進

2022年度末

女性管理職数	4人
女性リーダー職数	28人

2030年度末目標

女性管理職数	10人
女性リーダー職数	40人

03 組織・風土づくり

- ① ワーク・ライフ・バランス支援制度拡充
- ② 経営者との意見交換会実施
- ③ 福利厚生の見直し

A background image showing a business meeting. In the foreground, a person's hand holds a silver pen over a document. In the background, another person's hand points to a line graph on a document. The documents contain various charts, including bar charts and line graphs with data points. The overall scene is professional and focused on financial analysis.

04

2024年3月期

通期業績予想と株主還元

2024年3月期 第2四半期決算概要

- 新エネルギー分野や環境分野での製品開発など重点施策を継続的に推進
- 売上高増加と限界利益率の良化などにより増収増益

(単位:百万円)	2023/3期 第2四半期 実績	2024/3期 第2四半期 実績	前年比	
			増減額	増減率
売上高	12,904	13,812	+ 908	+ 7.0%
営業利益	307	1,127	+ 819	+ 266.5%
(営業利益率)	(2.4%)	(8.2%)	—	—
経常利益	252	1,174	+ 921	+ 364.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	134	827	+ 692	+ 515.3%
1株当たり 当期純利益(円)	10.46	62.19	+ 51.73	+ 494.6%

(注) 当社は年次での業務管理を行っておりますので、第2四半期(累計)の連結業績予想は公表していません。

2024年3月期 業績予想

- 半導体事業は、一部顧客の在庫調整局面が顕在化により受注が減少
- 評価用電源の大型案件の販売、小型組込み型電源の堅調な販売が継続
- 材料費の低減などによる利益率の改善

(単位:百万円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想	前期比	
			増減額	増減率
売上高	28,088	31,000	+2,911	+10.4%
営業利益	1,629	2,500	+870	+53.4%
(営業利益率)	(5.8%)	(8.1%)	—	—
経常利益	1,651	2,500	+848	+51.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,241	1,750	+508	+41.0%
1株当たり 当期純利益(円)	95.33	131.58	+36.25	+38.0%

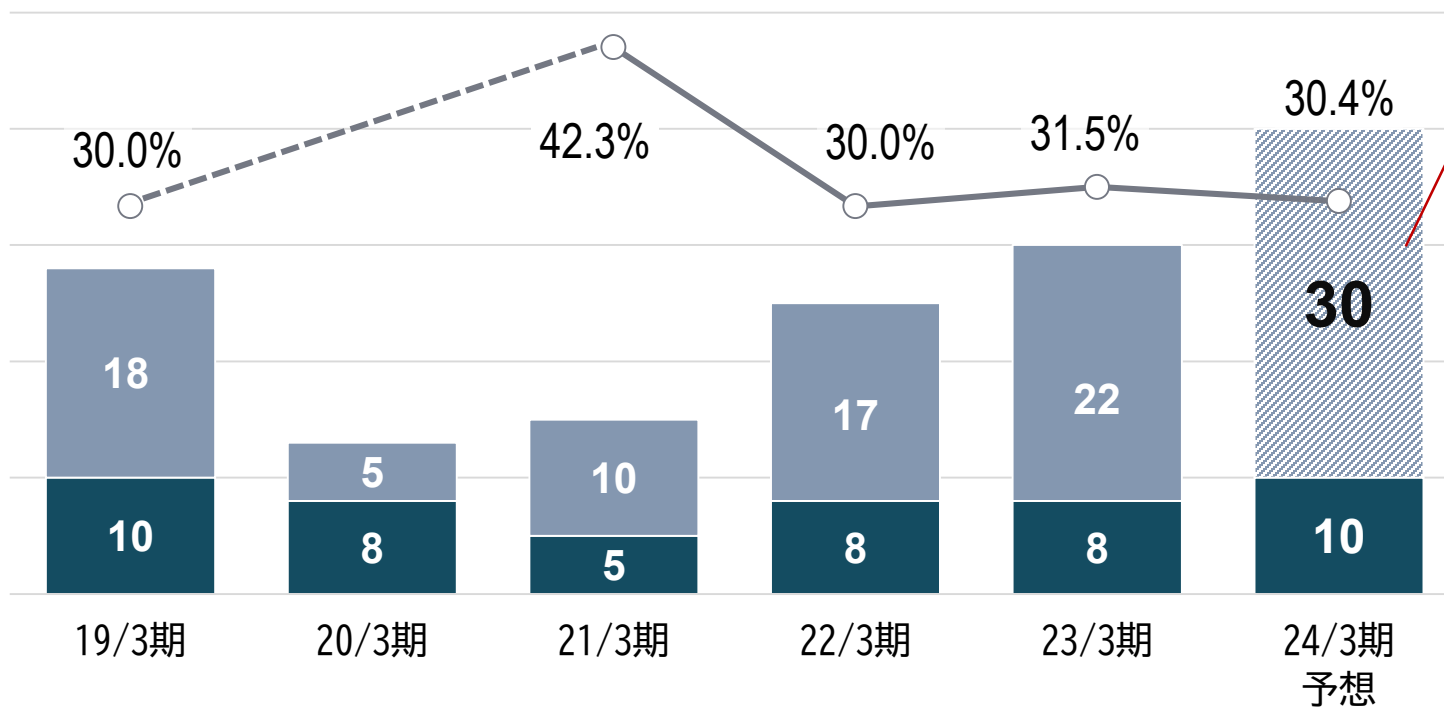
※ 2024年3月期通期の業績予想は、2023年11月7日に上方修正しております。

予想配当

- 配当性向は**連結純利益の30%**を目途に、安定的な配当の継続を基本とする
- 残りは設備投資や次世代製品の研究開発など戦略資金として活用

(単位：円)

■ 中間 ■ 期末 ○ 配当性向



期末配当**30**円
創業90周年記念配当
5円を含みます。

注：2020年3月期の配当性向については、親会社株主に帰属する当期純損失であるため記載していません。

※ 当社は現在のところ、株主優待制度を実施していません。

株価推移（5年間）と各種指標



2023年11月30日株価 終値 **1,414円**で計算

指標	値
1株当たり当期純利益 (2024年3月期予想)	105.26円
1株当たり純資産 (2023年3月期実績)	1,583.87円
時価総額	21,139 百万円

指標	値
予想PER	(連) 10.75倍
実績PBR	(連) 0.85倍
最低投資金額	141,400円

Point

05 まとめ

本日のまとめ

90年以上にわたり、高効率電力変換技術を強みにパワー半導体と電源機器を開発し、パワーエレクトロニクス業界をリードしてきました。

6つのマテリアリティは、中期経営計画の事業戦略と統合され、実行に移すことで新エネルギーや環境問題などの社会課題解決に貢献し、持続可能な社会の実現を目指します。

中期経営計画では、両事業ともに付加価値の訴求・高収益化を目指し、企業価値向上に取り組んでいます。

CO₂排出量の削減など環境保全、ダイバーシティ推進や人材の育成に取り組み、持続的な成長に向け着実に施策を推進しています。

株主の皆様への利益還元を最も重要な経営課題のひとつとして、配当性向は連結純利益の30%を目途に、安定的な配当の継続を基本方針としています。

当社ホームページをぜひご覧ください！

URL : <https://www.sansha.co.jp/>



IRメール配信サービス

当社投資家情報サイトから登録可能。最新情報をメールで受け取れます。



トップページ

投資家情報

統合報告書



ご清聴ありがとうございました。

ご意見、ご質問などございましたら、ご連絡ください。
sanrex-ir@sansha.co.jp

注意事項

- 1.本説明会の資料に記載しております業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。
- 2.本説明会の資料は、情報の提供を目的とするものであり、当社の株式の売買を勧誘するものではありません。